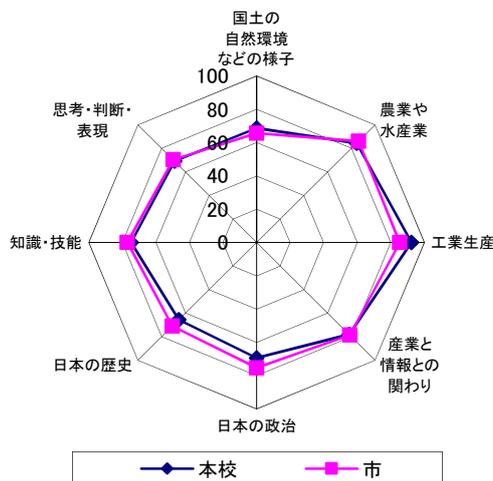


宇都宮市立御幸小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	68.7	65.7	67.0
	農業や水産業	84.5	86.1	77.5
	工業生産	92.3	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	78.2	78.6	69.6
	日本の政治	69.4	75.2	65.8
	日本の歴史	65.5	71.1	69.1
観点別	知識・技能	74.7	77.0	72.8
	思考・判断・表現	69.2	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<ul style="list-style-type: none"> ○領域全体の正答率は、市の平均を3ポイント上回っている。 ○日本の気候に関する設問では、市の平均を14.8ポイント上回っている。 ●日本周辺の海洋についての設問や、日本周辺の国や領土についての設問において、どちらも市の平均を大きく下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識の定着を一層図るため、日常的に地図帳を活用し、日本周辺の海洋や国、領土を確認する習慣をつけ、内容と関連付けて学習することで興味や関心を高めていく。
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> ○米作りの生産効率について考える設問では、市の平均を5.1ポイント上回っている。 ●領域全体の正答率は、市の平均を1.6ポイント下回っている。 ●問題の内容別に正答を比較すると、ほとんどの問題で市の平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な資料から必要な情報を的確に読み取ることができるよう、題名やグラフの特徴、単位等、今後も意図的に授業で取り上げていく。 ・文章にまとめる際には、キーワードやリード文を活用できるように授業の中で取り上げていく。
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> ○領域全体の正答率は、市の平均を6.9ポイント上回っている。 ○問題の内容別に正答を比較しても、全ての問題で市の平均を大きく上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な用語の定着を図るとともに、工業地帯・工業地域の立地や生産物については、理由や背景についても理解を深めてきたことが成果につながった。 ・ワークシートや映像資料の効果的な活用について検討し、より深い学びにつなげていきたい。
産業と情報との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ○情報の正しい受け取り方の理解についての設問では、市の平均を2.8ポイント上回っている。 ●領域全体の正答率は、市の平均を0.4ポイント下回っている。 ●問題の内容別に正答を比較すると、情報産業の役割や責任の大きさについて捉え、判断する設問では、市の平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活との関連を踏まえ、社会を支える情報の重要性について理解を深めるとともに、受け手や送り手として様々な観点から比較して判断する重要性についても指導していく。
日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> ○日本国民の権利及び義務について捉え、判断する設問の正答率は、市の平均を2.6ポイント上回った。 ●領域全体の正答率は、市の平均を大きく下回っている。 ●問題の内容別に正答を比較すると、日本国憲法における天皇の地位の理解についての問題で、市の平均を大きく下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を自分事として捉え、興味をもって学習ができるよう、生活と結び付けて考えることができる教材を用い、理解を深めるようにする。時事的な話題を学習に取り入れ関心を高める指導の工夫をしていく。
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ○問題の内容別に正答を比較すると、鎌倉・室町時代の資料を読み取る問題で、市の平均を大きく上回っている。 ●領域全体の正答率は、市の平均を下回っている。 ●記述式の問題での正答率は、市の平均と比べ大きく下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識を身に付けるために、歴史上の人物や出来事を暗記するだけでなく、その背景や起きた理由等について総合的に捉えて学習することができるようにする。 ・記述式問題の対策として、資料から読み取った情報や自分の考えを、伝え合ったり文章にまとめたりする活動を継続的に取り入れていく。